

生き生き塾20周年を迎えて

--生き生き塾の過去 現在 未来を語る

名誉塾長 島村 善行

1. はじめに

〈生き生き塾〉創塾20周年を迎えた。しごく当然のように迎えられた。しかし、考えようによっては、すごいことだ。

はじめは、50~60歳代の男女が嬉々として集まり、20年たって70-80歳代になっても、その好奇心、行動力は衰えない。不思議な集団だ。

20年間継続し、毎月例会をおこない、それに飽きたらず臨時小会合をもおこなう。例会後に二次会・三次会に喜び勇んで参加し、さらにそれを充実させるため、事前調査をしたり、役員会議をしたりして、継続実行してきた。とどまるところを知らず、まだ勢いがある。

生き生き塾を親分とすると、子分や兄弟分の会合もたくさんできた。今度はそれが集合体となって、島村医療介護グループのサポート集団にもなってきた。サポートの最上級システムは、時代の変化を先取りし、良い方向に誘導することだ。そんなことまでしている。

それが、STCC洗心・地域活性化会議だ。“コンサートと医療・介護講演”は、その代表的事業といえるだろう。



2. 島村トータル・ケア・クリニック設立と生き生き塾

平成13年12月1日、島村トータル・ケア・クリニックが新松戸に設立された。

いま、この文を書いていると気づいたが、同クリニックは、生き生き塾が作った産物である。生き生き塾大学芸会の〈ほら吹き大会〉で吹いた、私のほらからできたクリニックである。当時「20世紀の森のホール」の300人以上はいる小ホールで開かれた、大学芸会の大舞台での出来事だ。いま、老健施設島村洗心苑の事務長の島村真実（まさざね）も小学生で、舞台の上ではしゃいでいた。

「生き方を学び、語りあかせる場所を作る」のほらから生まれた。クリニックができ、島村医療・介護グループとなり、ことしの11月1日開業したグループホーム〈和名ヶ谷ほたるの里〉に繋がっていく。当グループも、生き生き塾に刺激されてか、まだまだ、生き物のように、うごめき成長している。

3. 過去・現在・未来

1) 過去

生き生き塾機関誌をよくぞ作ってくれた。過去は呆然として忘れ去られ、都合の良いように思い出される。この機関誌の創刊号が創立時のことを詳述再生してくれ、その後の活動も、各号に要約されている。吉田編集長に感謝。塾員投稿者に感謝。

塾の創立は、平成9年6月、渋谷与一さん、土田泰久さん、そして私との語らいに端を発している。千葉西病院にこの二人が入院中、院長であった私が、土田さんの病室に渋谷さんを招き、設立について、数回会合を持った。そして、平成9年6月14日、私のマンションの集会場で23名集まり、第一回目会合をおこなった。

2) 現在

「生き生き塾」の設立趣旨は、〈感動体験〉および〈健康管理の実践〉にある。

「生き生き長生き、ボケずにポックリ。死ぬときゃ百歳、百歳」が、塾の標語である。

その甲斐あってか、塾生は他のグループ（たとえば、72歳の土田、西岡、松井、田村、島村の高校同期会のメンバーは、30%ぐらい死亡・要介護状態のようだ）とくらべ、きわめて、健康長寿であることが、特筆すべきと思われる。

3) 未来

未来は、過去に何をしてきたか、現在何を語り、何に興味を持っているかで決まる。

「1.はじめに」に私の主張がある。みなで楽しみ、語り、創造していこう。

そして、

① 継続するためには、若者の参加が必要。かれらが興味を感じ、かれらに受け入れられるようなら、可能であろう。

② 己のことだけを考えると限界がくる。生き生き塾精神にのっとって、家族を大事にし、社会に役立つようにすべきであろう。

③ 一生現役で、家庭で社会で何かの役割を果たす。

〈個体保存の本能〉から、〈遺伝子保存の本能〉に、いつ変えられるかが、勝負どころとなるだろう。

④ 生き生き塾などのおかげで、医療介護のグループができ、どんな状態になっても、みなさんのお世話ができる環境づくりができた。安心していただきたい。

⑤ クリニック創設前は、会場がなく、いろいろな場所で例会をおこなっていた。今後は、ほたるの里2階に狭いながら、「未来創造館」を作った。ご利用を。

4. おわりに

最後に、やっぱりすごいことだったな。当塾に、私および家族全員が育てられたと、実感した。

そして三匹のタイを、立派に育てたいなー。〈認められタイ〉、〈役に立ちタイ〉、〈長生きしタイ〉。タイを生けずに飼うより、太平洋で泳がせたい。高知の浜で毎日見ていた、夢も希望もある大海原、その太平洋だ。

みなとともに、環境を、肝っ玉を、優しく、謙虚で、太っ腹で、明るくし、〈わしの人生素晴らしい〉と、みなで語りたいものだ。

(本文：生き生き塾機関紙第20号より)



2018年12月6日

生き生き塾・20周年記念パーティ